

博物館 Dictionary No.219

◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

平成知新館1F-3(書跡)に展示されている作品について勉強してみよう。

仏教学者のコレクション 松本文三郎の旧蔵品

みなさんは、集めているものはありますか？収集、コレクションと言えば大げさかもしれませんが、誰もが多かれ少なかれ、何らかのこだわりを持って、何かを集めているのではないのでしょうか。例えば女優のアンジェリーナ・ジョリーはアンティークナイフの収集家として有名ですし、ペネロペ・クルスはコートハンガーを収集していると言われています。共感できるものから、「何で？」と首をひねるものまで、コレクションは人それぞれですが、いずれも趣味や嗜好、価値観や経済力など、その人の個性を鏡のように映し出すものです。

京都国立博物館の所蔵する書跡は、3つのコレクションを基盤として形成されています。

【守屋コレクション】

弁護士、守屋孝蔵（1876～1954）氏が収集した古写経268件、宸翰（天皇の書）8件。

【上野コレクション】

朝日新聞創業者の一人、上野理一（1848～1919）氏が収集した中国書跡・絵画163件。

そしてもう一つが仏教学者、松本文三郎（1869～1944）氏が収集した仏教写本89件、仏教版本33件の122件よりなる【松本コレクション】です。

松本文三郎氏（図1）は、明治から昭和にかけて活躍したインド哲学・仏教学者です。石川県金沢市に生まれ、昨年（2019年）は生誕150周年にあたります。京都帝国大学文学部（京都大学文学部の前身）の開設委員、同学長、東方文化研究所（京都大学人文科学研究所の前身）所長などを歴任し、常に学会をリードしてきました。また日本仏教各宗派の重要な文献を集めた『日本大蔵経』を編集し、多くの著書を執筆しています。

松本氏の収集した仏教典籍は昭和7年（1932）に石崎達二編『仏教関係古写古版本目録』（『仏教徴古館紀要』第2冊）として目録が出版されています。そこには、仏教写本101件、仏教版本164件、その他5件の計270件が収録されています。



図1 松本文三郎 京都大学大学文書館蔵

松本氏の没後、昭和25年(1950)に、そのコレクションの一部が、京都大学人文科学研究所教授の塚本善隆氏によって購入され、同研究所に寄贈されました。昭和27年(1952)には『松本文庫目録』が出版されています。その後、昭和39年(1964)に残りの仏教典籍を京都国立博物館が購入しました。ですから松本氏の旧蔵品は、京都大学人文科学研究所と京都国立博物館に分蔵された形となっています。それでは、本館が所蔵する松本コレクションより大変重要な2作品を紹介しましょう。

○摩訶般若波羅蜜優波提舍 卷第二十七・二十八断簡 一卷 (図2)



図2 摩訶般若波羅蜜優波提舍 卷第二十七・二十八断簡 一卷
中国・南北朝時代(5世紀) 京都国立博物館蔵

中央アジアから出土した仏典で、隸書体(お札に書かれている「日本銀行券」に使われている書体です)の影響が残る字姿より5世紀前半の書写と考えられます。20世紀初頭、西本願寺第22代門主の大谷光瑞氏が派遣した大谷探検隊が持ち帰った中より優品を選び出版した『西域考古図譜』にも掲載されている非常に貴重

なもの。この写本がどのような経緯で松本氏の所有になったのかは不明ですが、氏は『西域考古図譜』編纂者の一人でしたので、その関係より入手したのかもしれませんが。

○梵字形音義 四卷 (図3)

平安時代の天台僧、温泉房明覚(1056~?)が、承徳2年(1098)に著した梵字の研究書です。本作品は明覚撰述の8年後、嘉承元年(1106)に書写された現存最古の『梵字形音義』完本(四卷揃)で、早期の五十音図もみられ、日本語研究においても重要な作品です。金沢市出身の松本氏は、同郷で活躍した明覚に親近感を覚えたのか、同じく明覚の著述である『悉曇大底』の古写本も所有しており、「賀州隠者明覚と我邦悉曇の伝来」(『藝文』1917)という論文も執筆しています。

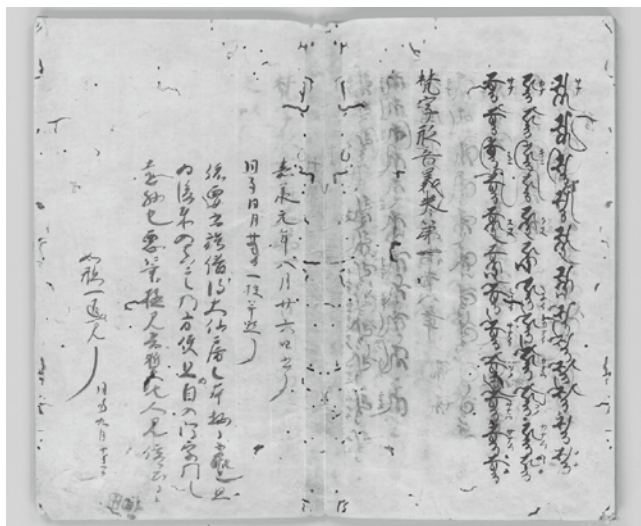


図3 梵字形音義 卷第一 明覚撰 日本・嘉承元年(1106)写
京都国立博物館蔵

それぞれの作品を個別に見た時と、コレクションとして見た時、そこにはまた異なった物語が浮かび上がってきます。中央アジアから日本まで、その壮大なコレクションは、あたかも氏の学問を体現しているかのようです。

(美術室 上杉智英)